

ドイツを代表する新約学者の集大成的著作、邦訳完結!

# 新約聖書神学Ⅱ



フェルディナント・  
ハーン Ferdinand Hahn

ドイツの新約聖書学者。1926年生まれ。神学博士。キール大学、マインツ大学、ミュンヘン大学で正教授歴任。2015年、89歳で死去。



大貫 隆・田中健三 [訳]

神学の諸課題について、新約聖書全体がどのように語っているのかを詳細に解説、その神学の統一性を明らかにする。「キリスト教正典としての旧約聖書」「啓示」「救済論」を扱った上巻に続き、下巻では「教会論」「終末論」を扱う。大学の教科書として書かれているため読みやすく、教師試験で問われる主題も多いので、神学生にも最適。

2019年  
11月22日  
刊行 予定

A5判 上製・488頁・  
本体12,000円+税

ISBN978-4-8184-0879-1 C3016

翻訳者

## 大貫 隆

東京大学名誉教授、日本新約学会会長

### 『新約聖書神学』邦訳完結に寄せて



F. ハーン『新約聖書神学』の邦訳（Ⅰ-Ⅱ巻、全4冊）が完結した。欧米では、新約聖書神学の表題を掲げる著作は無数にある。その中で本書は神学史（第Ⅰ巻）と主題的論述（第Ⅱ巻）を組み合わせ、どちらにもほぼ同じ紙幅を割くという包括性において際立っている。読者は否応なしに、伝承や文書ごとの違いと同時に、神学的な統一性に関する問いへ誘われる。生前の著者自身も、その点にこそ自分の創意があることを繰り返し語っていた。ドイツでは、その創意が教派の違いを超えてきわめて高く評価され、刊行後まもなくから版を重ねている。私が原著者から完成原稿を見せられたのは2000年のことであった。以来ほぼ20年、大友陽子氏（Ⅰ上）、須藤伊知郎氏（Ⅰ下）、田中健三氏（Ⅱ上下）の協力を得ての完訳である。本書が今後日本でも標準的な著作となっていくことを見抜いて、終始全訳の方針を堅持された出版社にも敬意を表したい。

